

2024（令和6）年度 事業計画書

1. はじめに

新型コロナウイルス感染症は5類感染症に位置付けられましたが、現在もなお安心できる状況ではありません。一方、ロシアによるウクライナ侵攻は続いており、また新たなイスラエルとハマスの紛争なども加わり、経済情勢はさらに影響を受けると考えられます。本年度も、様々な物価高騰によって各事業所の運営は厳しい状況を余儀なくされることが想定されます。引き続き、社会環境や経済状況を予測した予算を立てることとします。本年度は、中期事業計画(2022年度～2026年度)の3年目となりますが、事業本部制の廃止に伴う担当理事制による拠点単位の管理体制、世代交代の段階的实施による事業運営、一部の総務経理事務の本部統合などを含めて継続して取り組み、併せて、この間の自然災害や元旦に発生した能登半島を中心とした地震災害なども教訓に、予測できない自然災害への準備なども着実に進めていきます。

わが国も批准した国連障害者権利条約は、2022年8月に国連権利委員会による初回審査が行われ、会期中に総括所見も公表されました。これまでの障害者施策を父権主義的アプローチと指摘し、暮らしの場や教育の場、就労の場の分離された環境に懸念が示され、インクルーシブな社会への移行を示唆しています。今後は、「人権モデル」に調和するように社会環境の変化が求められ、障害者施策の現状もまた問われていくものと思います。本年度も、社会環境の変化に速やかに反応するとともに、障害のある人の暮らしぶりの向上を目指して関係団体と連携し、法人全体で、拠点の所在するそれぞれの地域で、様々な諸課題に取り組んでいくこととします。

2. 事業方針と予算の特徴

経済協力開発機構（OECD）の短期的な世界経済の見通しは、下振れリスクが高い傾向にあると指摘し、特に不確実の要因に紛争に起因するリスクを挙げ、今後のエネルギー市場や主要な貿易ルートの混乱などの影響を危惧しています。

本年度の事業方針は中期事業計画を推進することを前提としますが、各事業所の就労支援事業では、材料や製品等の仕入れ、水道高熱費などの必要経費の高騰、あるいは高止まりの傾向は当面続くものと予測し、経済情勢に注視して厳しく見込む必要があります。また、業界の不正や虐待・ハラスメント報道などには特に注目し、当法人で決して起こらないよう、法人全体、あるいは拠点間で情報を共有し、協力・連携して取り組むこととします。

(1) 経営の基本方針

- ・経営理念や倫理、社会的役割に伴うコンプライアンスやガバナンスを重んじた法人運営に継続して取り組みます。
- ・福祉サービスの質的向上のために、第三者サービス評価機関の審査を受けるとともに、苦情解決第三者委員制度の運用や広報誌やホームページ等による情報開示に取り組みます。
- ・法改正や業務改善などに伴う法人の規程等を必要に応じて見直します。

(2) 法律・施策等改定への対応

- ・障害者総合支援法に伴う障害福祉サービス報酬改定や、東京都サービス推進費のメニュー選択式加算の変更、障害者雇用調整金の改定などの法律・施策等の改定に注視し、支援の質の向上に努力するとともに、公費報酬のない拠点との整合性にも配慮して、その都度協議していきます。

(3) 財務・資金管理

- ・会計顧問の指導を受けながら、会計基準に則り精度の高い管理に努め、さらに外部会計監査人の指導を会計管理に反映させます。
- ・財務や資金管理について、外部からの借入金は前年同様とします。法人本部は全体を把握し拠点間の窓口となって調整に努め、可能な範囲で内部の資金活用を検討します。
- ・前年度は、逼迫した資金繰りを解消するため、理事会の承認を受けて、年度途中で特殊当座借越の中から新たに1億円を借り入れました。経営改善に全力で取り組み、計画的な返済を目指します。

(4) 事業の継続

- ・障害福祉サービス事業所等へのBCP（事業継続計画）策定の義務化は、前年度で経過措置が終了しました。当法人では、策定済みの計画を必要に応じて適宜見直していきます。
- ・引き続き、感染症の予防対策には徹底して取り組むこととします。
- ・常に経営改善に視点を置き、持続可能な事業への体質改善を図ります。

(5) 人材確保・育成

- ・継続的に人材確保に努め、経営や福祉の専門性を向上することを目的とした教育、研修を計画的に実施して人材育成に取り組みます。
- ・人事考課制度やハラスメント対応の手引き等を活用して風通しの良い職場環境づくりに努め、一人ひとりの活躍の場を充実させます。次世代を育成し、世代交代も視野に順次進めていきます。

(6) 他の団体との協力連携

- ・障害者福祉の向上のために、各省庁ならびに、東京都、各区市自治体、全国社会福祉協議会、東京都社会福祉協議会、一般社団法人ゼンコロ、特定非営利活動法人日本障害者協議会、全国社会就労センター、日本セルフセンター、東京都セルフセンターなどにおいて積極的に役割を果たします。また、従業員等が、対外的な立場において十分に役割発揮ができるように、可能な限り配慮し支援します。
- ・前年度に法政大学ならびに中野区のSDGsパートナーに参加しました。様々な取り組みの要請には、可能な限り連携していく予定です。

(7) 地域活動

- ・障害者権利条約が示す「人権モデル」を基調とした支援体制は、地域の様々な社会資源との連携が不可欠となります。拠点ごとの地域活動においては、各自治体との連携を深め情報交換を密にしながら、地域福祉の向上ならびにニーズに応じた障害者福祉の充実に努めます。また、地域の福祉関連ネットワークには積極的に参画し、重要な社会資源になり得ることを目指します。

3. 各事業所の計画概要

前年度は、事業本部制の廃止を決定して必要な準備を行いました。本年度は、担当理事制として拠点単位の管理運営としますが、これまで以上に協力・連携を活発に行い、既存事業の安定経営ならびに福祉の専門性の向上を目指し、拠点が所在する地域のニーズに応じていきます。併せて、法人内にある現在の公益に関する事業は、将来のあるべき役割を想定しながら法人全体で支えられるよう検討を重ねます。

(1) 法人本部

法人全体、法人内の各事業の充実を目指し、法人の抱える諸課題への対応、組織の強化策や運営改善、ガバナンス強化等において事務局としての役割を果たします。併せて、中期事業計画に基づき、法人本部として各拠点と協力しながら主体的に関わっていきます。事務局の運営においては、一部の総務経理を事務統合し、コスト意識に基づいた業務の省力化や事務処理の効率化を推進します。法人内の会議、委員会、研修等は、新型コロナウイルスの感染防止を継続しつつ、対面や集合、オンライン開催など臨機応変に対応していきます。

(2) 地域生活支援本部

地域生活を支援する事業として、グループホーム、短期入所、居宅介護事業等、特定相談支援事業を運営します。新型コロナウイルスの影響は徐々に少なくなっており、短期入所や移動支援の利用も少しずつ増えていくことが見込まれます。事業本部制廃止に伴い、福祉事業本部を地域生活支援本部と名称を変更して、グループホーム等の現地管理と運営管理などを整理し、管理運営をコロニー中野の所長が兼務する体制とします。

(3) トーコロ情報処理センター

事業本部制廃止に伴い、事業部とデジタルメディアセンターを統合してトーコロ情報処理センターとして事業運営にあたります。法人内のネットワークやホームページの管理など、各事業所として連携して横断的に役割を果たします。統合のスケールメリットとして、生産効率やコスト競争力を高め、また、事業効率・収益性を向上させるなど、単体よりも多くの成果が出ることを期待し、さまざまな問題や課題と向き合っていきます。IT関連企業は、コロナ禍による財政難の状況から保守的な傾向にあり、受託業務においては以前にも増して先が見通しづらく、売上高が落ち込むことが懸念されます。継続性のある年間一括受託業務を積極的に受注し、顧客からの要件・要望事項に柔軟に対応できるよう、その時々に応じた体制を組みながら横断的に業務を遂行します。

(4) 職能開発室

前年度に続き、世代交代による引き継ぎを目標に進めます。制度改正やデジタル活用等により変わっていく障害のある人の働き方を、今後も冷静に評価しながら、事業そのものを精査し、新たに取り入れるべきものは取り入れていきます。予定されている総務経理事務の統合の機会に、事務局に依存していた作業を見直し、従業員間で効率よく担えるようにしていきます。また、人材確保のタイミングにあわせ、溜めてきた組織内のノウハウをさらに明文化し、新旧すべての従業員が意識を合わせ、志を高く持てるよう工夫していきます。

(5) コロニー中野

本年度より、実利用が見込めない就労移行支援事業を廃止し、就労継続支援B型事業の定員を6名増員します。また、地域生活支援本部の管理を兼務して運営することとします。人員配置を見直し確実な支援体制を構築して利用率の向上を図るとともに、引き続き、高齢化や障害の多様化・重度化への対応にも取り組みます。作業に入ることが困難な利用者も関わられる仕事を増やし、より高い工賃を目指す利用者には、就労支援事業の部署の再編成を行い、より効率的な生産体制を構築するとともに支援体制も充実させ、当事業所を利用するすべての人にとって、魅力のある施設運営を目指し、地域のニーズに応じていきます。

(6) 中野区仲町就労支援事業所

中野区との基本協定に基づき、中野区障害福祉計画に沿って魅力的かつ有意義な事業運営を目指します。また、社会生活に困難がある方への対応も可能となるように区内施設・サービスとの連携協力を進めます。通所率の向上と就労移行支援事業の定員の充足を目標に、日々の支援の充実に努力します。福祉サービス第三者評価受審を予定し、利用目的に沿った個別支援計画により、主体的に目標達成できるよう支援を行います。引き続きコロナ禍の影響を最小限に抑えるよう努力し、感染予防を継続します。

(7) コロニー東村山

就労支援事業では、印刷事業を大きな柱としながらデジタル化事業の高収益化に取り組み、売上の安定化を図っていきます。必要加工高を確実に確保し、利用者の工賃アップを全従業員が意識して取り組みながら、借入金の返済に可能な限り努力します。障害福祉サービス事業については、障害の重度化、高齢化、多様化にあわせたQOL（生活の質）の向上などの生活支援にも関係機関と連携して取り組みます。職場実習や利用希望者は積極的に受け入れを行い、個別ニーズを的確に把握し、受け入れ態勢を整えて利用者増を図ります。

東村山市から受託している「東村山市障害者就労支援室」は、引き続き現体制で取り組み、業務の効率化を図りながら市民のニーズに応じていき、特定相談支援事業所「ふきのとう」は、東村山市および市内近隣相談支援事業所と連携しながら地域の期待に応えられるように、それぞれのノウハウを十分に活かしながら対応していきます。

(8) トーコロ青葉ワークセンター

前年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症となったことから、土曜プログラムを3年ぶりに開始しました。本年度は、感染症予防に配慮し平日のプログラム活動を再開します。継続的な事業所利用につなげるために、スポーツやレクリエーション活動を充実させ、利用者の精神や肉体の健康維持を促進していきます。また、就労支援と同様に、日中活動支援を充実することで通所への目的意識を高め、利用者数の確保や利用率の向上を目指します。併せて、支援の質を高めるために、職員の支援の実践につながる研修や適宜ミーティングなどを開催し、組織全体で支援力アップに取り組みます。

(9) コロニーもみじやま支援センター

コロナ禍による利用率への影響も減少し、安定した事業体制を確立しつつあります。トーコロ情報処理センターおよび職能開発室と連携して、地域から必要とされる施設を目指しま

す。多機能型施設の各サービスを有機的に活用して、個別ニーズに沿った支援計画の作成と支援内容の充実を図り満足度の向上に努めます。感染予防には継続して取り組み、処遇向上を念頭に就労支援事業の量と種類を提供できるよう努め、利用者のQOL向上のため、ストレスの軽減や体調維持に配慮したプログラム等を実施していきます。

(10) 東京都葛飾福祉工場

本年度も、防災部門、製袋部門、縫製部門、栽培部門ともに厳しい事業展開が予想されますが、全事業部門で協力して結果を残せるよう努力していきます。福祉サービスは、通所が楽しい施設となるよう、引き続き余暇活動や教育研修プログラムを充実させます。特定相談支援事業は、葛飾区や関係機関等との連携を密にし、他の相談支援事業所と協力しながら、引き続きサービス等利用計画を立案します。個人情報保護や虐待防止・権利擁護研修等についても、感染予防対策を講じながら集合研修を再開し、特にハラスメントや虐待防止・権利擁護に関する正しい知識を習得するとともに、従業員同士の横の関係や、上司と部下等の縦の関係において、互いに相談しやすく、また、オープンに意見交換ができるよう風通しの良い職場環境作りに取り組めます。

本年2月に竣工した新立石工場への移転作業については、入念に準備のうえ事業に影響がないよう遅滞なく実施し、通所ルートや環境が変わる利用者についても、事故防止や体調に変調をきたさないよう丁寧に支援していきます。

(11) 東京都大田福祉工場

本年度で創立50年目を迎えます。様々な課題に向き合い不断に変革することを目指します。

印刷事業は、コロナ禍の影響を受けましたが、「障害者優先調達推進法」を活用し売上高の回復に努めた結果、一定の成果を残すことができています。本年度は、印刷事業統括システムをバージョンアップし、原価計算に基づく利益管理の本格運用に目処をつける予定です。加えて、生産活動の改善に向け、コミュニケーションの活性化、連携、従業員の多能化をめざすなど、横断的な組織の構築に努めると同時に、内製化の推進、官公需を中核とした新規クライアントの開拓、競争仕入れをさらに強化し収益向上に努めます。

障害福祉サービス事業では、メンタルなど様々な困難課題を抱える利用者が年々増加しており、利用率の低下が大きな課題になっています。利用者に寄り添い、個々に抱えるニーズや課題に応えるためにも一層のチーム支援力の充実を図ることが求められており、支援力向上に向け支援専門職の補充を行うと同時に、現職支援員の計画的な育成に努めます。